

プレゼンテーションへのディスカッション内容の記録

〈6月13日〉

1、秋元夏海「SNS相談」

質問内容	発表者の返答
相談内容が文字で残るので、情報共有やディジジョンエイドの作成にも活用できるのでは。	自分の語りが文字で残るため、実際に情報共有のツールとして活用している事例もある。
声のトーンや表情が見えない分、相談員の聞き取りの技術が必要である。	相談員の対応について、ガイドラインはあるものの、発展途上の段階である。
電話相談も受け付けているのか。	相談時間は決められている。 対応率は100%ではない。実際に繋がらなかったというクレームもある。どこまでアクセス可能していくかも、今後の課題である。
厳密に言うとLINEはSNSではない。しかし、LINEならではの、文章の短さやスタンプの使用など、LINEならではのコミュニケーションの取りやすさの世界に相談員に入っていく取り組みは重要。特に、いじめ・自殺相談なのでニーズがあるのかもしれない。健康相談では、相談員側にも医療者である条件が課されてきそう。相談したい人だけは相談するのでニーズには合っているが、相談したいというニーズのない深刻な人には届かないかもしれない。	チャットなどのサービスも含めてSNS相談としているが、圧倒的に多いのはLINEでの相談。 相談ニーズのある人へのサービスに留まってはいる。
ニーズに合わせた連絡ツールを扱うのは重要。プライベートでは使いやすいが、企業や組織としての使い方も考えるのが大切。	

2、小林「育児コミュニティサイトとアプリのmini調査とその考察」

質問内容	発表者の返答
育児の情報は溢れていてどれを信じ、選択していいのかわからない。どこまで母親の悩みに有効かわからないので	

<p>育児サイトでの検索はしない方が良く と考える。</p>	
<p>在日外国人の母親のためにこうゆうア プリが有用ではないか？英語版などは あるのか？子育ても文化の違いがある ため、英語のアプリなどがあると良い と考えた。</p>	<p>英語版があるかはわからないが、そうゆう活用 の仕方は良いと思う。</p>
<p>発表資料の内容を匿名化しているのは どうしてか。サイト名、アプリ名を教 えてほしい。 「子育てインフォ」という公的な良い サイトがある。掲示板は良い人が住ん でいるかによって異なる。体験談は、 エビデンスはないが、協力的でいい。 助産師などの専門家でも意見は分かれ る。皆が安心するための場所として、 情緒的なサポートの意味が強い。</p>	<p>批判的な発言もあったので、配慮した。 A サイト：ママスタジアム B サイト：ウィメン ズパーク C サイト：リトルママ A アプリ：ママリ B アプリ：ベビーカレンダー C アプリ：ルナルナベビ</p>
<p>オフィシャルなサポートが少ない中で 確立されてきた経緯があると考ええる。 育児は医療と生活の狭間であり、エビ デンスもないので、経験のシェアに意 味がある。サイト運営はコストがかか っているはずであるため、使い勝手を 良くするために、行政や専門家が関与 していくことで安全性に繋がる。</p>	

3、島本「近年の結婚実態におけるレポート」

質問内容	発表者の返答
<p>最近、ロマンティック詐欺が流行って いるが、どんなサイトが安全とかある のでしょうか？</p>	<p>いわゆる街コンとかは人数が集まらないと、企画 者をサクラとして集めることもあるという実態 を聞いたことがある。 このようなサイトだと、アムウェイの勧誘などが あるということも聞いたことがある。</p>
<p>このようなサイトは忙しい現代社会 に求められていると思うが、詐欺など あるのはもったいないと思う。昔の</p>	<p>アプリ会社も対策はしている。通報するなど。 個々の人も、私は宗教などの勧誘はしません、と いうようなことも出している。</p>

<p>お見合いみたいな感じでうまくいけばよいと思う。期待したい。</p>	
<p>海外では課金制度もあるようだ。</p>	<p>女性はタダのものもある。男性はお金が必要だったり。男女ともにお金がかかるサイトもあり様々な。</p>
<p>アプリをやっている友達が身近にもいるので広まってきていると思う。マッチングを5人10人とやっている人だと、相手もそうやって出会いをしているのかな、と。また、収入がないと出会いが限定される、ということも友人から聞いた。</p>	<p>マッチングアプリとなると、人柄というところが見えづらく、理想の相手と求めるところと合致しないのかも。</p>
<p>アメリカではそういうサイトありますか？</p>	<p>ずいぶん前で、SNSを通じ結婚している人は8人に1人くらいだった。日本でもそうなっているのでは。結局は、結婚する気があるかどうか、というところ。SNSを使ってみましょうということと一緒に話で、リスクはあるが、それによって学ぶ、出会ってみないとわからない、というところもある。</p>
	<p>知人もアプリで結婚。普及してきている。 「理想が高い」という項目については、調査する年によって、未婚者の平均年齢が高い人が増えているので、考え方も変わってくる可能性がある。 30代以降になると、適当な人を見つけに行く場に行くことも大変になることもある。婚活サイトなどで選択肢が広がったのはよいが、その分リテラシーが重要に。少子化については、個人の価値観になってくるところがある。</p>

4、寺井「代替療法と意思決定」

質問内容	発表者の返答
<p>患者でみどりむしを習慣に飲んでいる人がいたとき、Dr.に相談したら、入院中は中止と言われ、患者さんに中止するように伝えた。医療者が、患者さんが代替医療に興味をもっている</p>	

<p>ことに関心を示せていないと感じた。柔軟に吟味するということが求められるのかと感じた。</p>	
<p>手術する前に、サプリメントや代替療法を確認する。副作用があるから。医療者もそれをわかっていないと、患者さんに説明できない。「医師や看護師に聞く」、とあるが、医療者は「良いです」や「だめです」と言いにくい立場でもある。しかし、患者さんの意図を汲んで、自分たちがどういう判断をするかということについて、メリット、デメリットをきちんと伝えていくことがポイントだと感じた。(西洋医学も含め)</p>	
<p>医療者は代替療法を低く見る傾向にある。患者さんにとっては、今満たされないものがあるからそれを使う側面がある。何かしらニーズがあるから頼ろうと思う。なぜそれをやろうとおもったのかを理解するところからはじめないと、話がかみ合わなくなってしまう。害があるならそれは伝えなければならぬが、害がないのであれば、こちらがやっていい、やってはいけない、ということはおこがましいというか、本人が選んでいること。代替医療自体に偏見を持つ必要はないのでは。</p>	
<p>エビデンスの有無を示すためにアメリカにはナショナルセンターがある。実際には、近代医療を全面的に否定して代替医療にすがっている人は少ない。データがなく嘘をついたり、データを取ろうともしない姿勢は良くない。</p>	
<p>業者としては儲かるけれど、使用者か</p>	<p>人の弱みにつけこんで、騙すようなやり方で代替</p>

<p>らすると高価なプラセボを買わされているかもしれない。経済的な害や、費用対効果についての研究が進むことで、ブレーキがかかるのではないか。健康被害はなくても、経済的被害について考える必要が出てくるのではないか。</p>	<p>療法を売るのは倫理的にどうかと思う 代替医療は、医療・健康とは何かを考えざるをえない奥深いテーマです。</p>
--	---

5、藤野「遺伝学的情報とカウンセリングについて考える」

質問内容	発表者の返答
<p>医療者として遺伝学的情報をどこまで把握していたら良いか。</p>	<p>確立された治療法が無い情報を伝えてしまうリスクがある。 専門家につなげる能力が大切。</p>
<p>遺伝情報により、悪性高熱病の死亡率が減ったのはありがたい業績。 高血圧、糖尿病に対して、薬の効きやすさ、効きにくさも、オーダーメイドになるのではという期待もある。 一般の人たちに遺伝子検査が行われることで、ループされて子供たちの難病を治す、未来につながるかもしれない。</p>	<p>遺伝子検査の情報が、今後、企業によってどう扱われるかが分からない不安がある。 犯罪者を探すために遺伝子情報が役立つ事例もある。</p>
<p>意思決定に使えない情報が手に入ってしまうのは、倫理的に問題。 意思決定スキルの教育なしに、情報は扱えない。知らないから偏見を持っている側面もあるし、知った情報をどう扱うのかも重要。 知りたくもない人が特定の人に引っ張られたり、個人の幸せよりも組織の利益が背後にあることもある。</p>	
<p>遺伝についての知識を持っている人、遺伝情報を扱える人材が増えてくることもポイント。</p>	